非認知能力 育成に力

県教委 7中高指定

高齢化やIT技術の進歩を受けて起きる様々な犯罪や問題が社会を取り巻く中、県教育委員会は、子どもたちの意欲や協調性といった「非認知能力」の育成に力を入れている。予測困難な時代を生きるには目標をあきらめない力やコミュニケーション力が必要としており、指定校となった7中高では、生徒の主体的な学びを支援するため、具体的な取り組みが進められている。

（弓立美沙輝）

アイス自販機の導入についてオンラインで説明する生徒たち（昨年12月6日、県立前橋南高で）

自販機設置活動など 独自取り組み進む

県立前橋南高の生徒会メンバー3人は昨年12月6日、放課後に福岡県立久留米高の生徒とオンラインで意見交換をした。テーマは、生徒会が企画して昨年3月に校内に設置されたアイスクリームの自動販売機について。同様にアイス自販機導入を検討していた久留米高の生徒が、状況を知りたいと依頼してきたという。

教員の反応やアイスの売れ行きなどを問う質問に対し、前橋南の3人は「健康被害が心配だ」「貧富の差が出るのでは」といった反対意見が多かったことや、「ぼちぼち好調」と売れ行きを説明した。

2年生で生徒会長の腰高紗依さん(17)は「設置活動を通して意見を伝えることが楽しくなった。自分で考えて行動する力が身についたと思う」と振り返る。

前橋南高は2023年4月に指定校となって以降、生徒会だけでなく各委員会や有志の生徒が学校運営に関わってきた。学校説明会で説明する内容の準備や司会進行、教員による服装・頭髪一斉指導の廃止、スキー教室の企画運営など内容は様々で、アイス自販機の導入もその一つ。反対意見があっても生徒が自ら対策を考え、既に導入している他校の話を聞くなどして、実現に向けて取り組んだという。生徒会顧問の原沢正樹教諭(37)は「困難にぶつかった時でも失敗を恐れない力が身についたと思う。今後も一緒に良い学校作りを進めていきたい」と話した。

「課題を自分の事として考えて判断し、責任ある行動をとる人材」の育成を目指す県教委は、非認知能力の強化が欠かせないとして、市町村教委や各学校に希望を募ったうえで、23年度に前橋南高など中高6校、24年度に県立伊勢崎高を指定校に選定した。各校は非認知能力向上のため、独自の取り組みを活発化させている。非認知能力強化は県外でも行われており、岡山県の商業高校では、仕入れから販売、決算までの企業活動を生徒が担う探究学習も展開しているという。

ただ、教員にとっても未経験の分野は十分な支援が出来ず、数値化できない能力の評価も難しい。県教委総務課は「指定校の活動で浮き彫りになった課題を分析したい」としている。

指定校の主な取り組み

前橋南高	・アイスクリーム自販機の導入 ・学校説明会の運営
高崎女子高	・時間割の中に生徒が自由に使える時間を年間約15時間設置 ・担任を固定せず複数の教員がローテーションする「チーム担任制」導入
伊勢崎高	・勉強や絵画制作など生徒自身で立てた計画を実行する「エージェンシーの日」を設置
玉村町立南中	・生徒らで校則を改定 ・「第二の校歌」作成
藤岡市立小野中	・主体的に学べる授業の実施
町立下仁田中	・生徒がスポーツ大会を企画運営 ・主体的な学びのため、小グループに分かれた生徒が話し合う授業の実施
村立川場中	・行事実施の前にどんな非認知能力が伸ばせるかを教職員が共有。実施後は生徒の作文などで成果を検証

読売新聞　2025.1.29(水)　地域面